

2011年8月1日 駿河湾の地震

－ 近地強震波形による震源過程解析（暫定）－

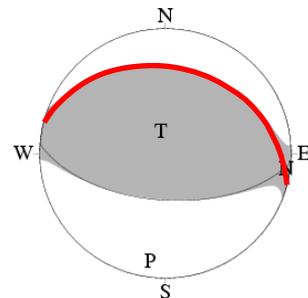
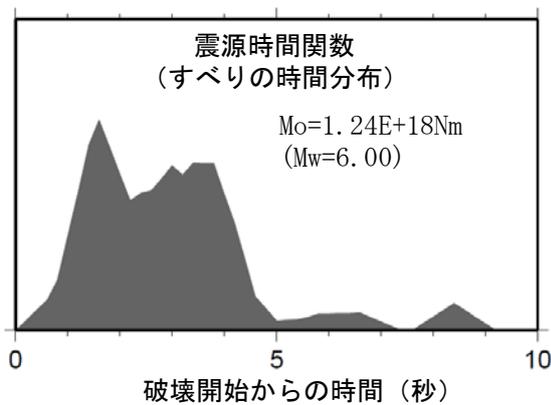
2011年8月1日23時58分に駿河湾で発生した地震 ($M_{JMA}6.2$) について、国立研究開発法人防災科学技術研究所のK-NET、KiK-net及び気象庁震度計の近地強震波形を利用した震源過程解析を行った。

破壊開始点はDD法による本震の位置 ($N34.7053^\circ$ 、 $E138.5406^\circ$ 、深さ21.3km)とした。

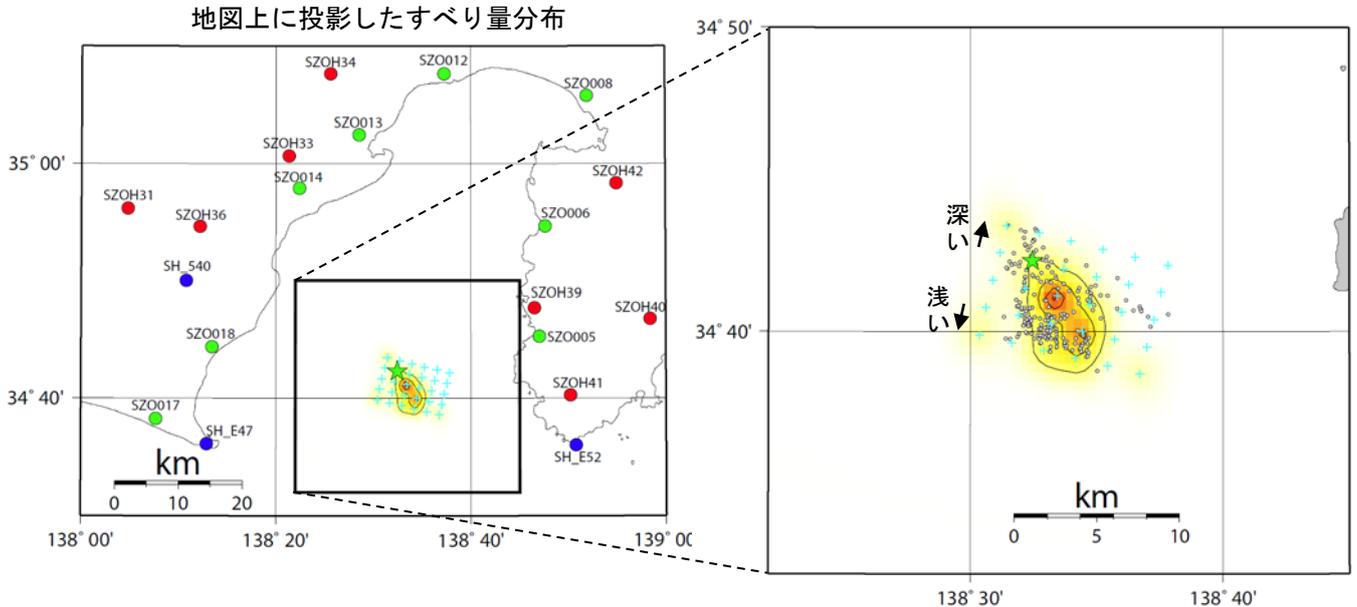
断層面は、気象庁CMT解のうち、余震分布に整合的な北落ちの面 (走向 284° 、傾斜 31°) に設定した。

主な結果は以下のとおり (この解析結果は暫定であり、今後修正することがある)。

- ・ 主なすべりは初期破壊開始点から見て南東側の浅い場所にあり、主な破壊継続時間は5秒間程度であった。
- ・ 断層の大きさは長さ約6km、幅約6km (最大破壊伝播速度を 2.0km/s と仮定した場合)、最大のすべり量は約1.5m (周辺の構造等から剛性率を 41GPa として計算)。
- ・ モーメントマグニチュードは6.0であった。

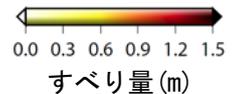


解析に用いた節面を赤線で示す。
(走向 284° 、傾斜 31° 、すべり角 99°)



★印は本震の破壊開始点を示す。また、0.3m間隔の等すべり線を描いた。

解析に使用した観測点をあわせて示した (国立研究開発法人防災科学技術研究所のK-NET (●)、KiK-net (●) 及び気象庁震度観測点 (●))。○はこの地震の発生から1日以内に発生した、DD法による余震の震央を示す。解析に用いた小断層 (小断層の中心位置を+で表す) は2km間隔である。



更新日：2017/02/17

観測波形（黒：0.05Hz-0.125Hz）と理論波形（赤）の比較

